

第8回

JTB 交流文化賞 受賞作品紹介

JTBは、地域・文化・そして人との新しい出会い、「交流文化」を支援・推進します。

日本に、世界に、まだ知られていない魅力あふれる「まち」が点在しています。誇りを持ってわが「まち」に暮らし、「まち」を育てている人。心魅かれる「まち」に赴き、生涯消えない思い出を刻んだ人。それぞれの熱い想いが交差する第8回受賞作品をご紹介します。

交流文化賞（組織・団体対象）

最優秀賞

「花嫁のれんのまち」のと・七尾 一本杉通り
「語り部処」でふれあい「茶の間の観光」
一本杉町町会（石川県七尾市）

優秀賞

祖先の痕跡が残る空間
「ガンガラーの谷」守るために価値を伝える
株式会社南都（沖縄県南城市）

優秀賞

学生ボランティアが運営する
新今宮観光インフォメーションセンター
阪南大学国際観光学部松村嘉久研究室（大阪府松原市）

交流文化体験賞一般個人部門

最優秀賞

大地の芸術祭～
越後妻有アートトリエンナーレ「車座おにぎり」で、
笑顔といのちにつながる旅
小高 朋子

優秀賞

西表島に染まる日々
塚口 洋子

優秀賞

自転車旅で出会ったおもてなし文化
恩田 茂夫

交流文化体験賞ジュニア部門

最優秀賞 小学校低学年（1～3年生）

ぼくの京都旅行
松尾 倫之介

最優秀賞 小学校高学年（4～6年生）

ホテルに教えてもらった滋賀県のよさ
白根 拓実

最優秀賞 中学生

都会っ子の一人旅 in 平戸
深澤 崇史

株式会社ジェイティービー

旅行事業本部 観光戦略室

〒140-8602 東京都品川区東品川2-3-11 JTBビル18階

tel.03(5796)5785 fax.03(5796)5796

JTB交流文化賞

検索

受賞作品はこちらをご覧ください。

巻頭インタビュー

住まうように旅する時代へ

～新しい生き方を提案する地域づくり～

平井伸治さん

特集

第4回全国エコツーリズム

学生シンポジウム開催報告

エコツーリズムを日本の魅力の架け橋に

世界のエコツーリズムサイト

フランス・イエール

プロヴァンス最南端の町、海と空が交わる場所

ガイドだより／坂内剛至さん（栃木県）

地域団体だより

NPO法人いわてマリンフィールド（岩手県宮古市）

ふるさとの「海に学び」「海に親しみ」

「海を活用する」

おすすめエコツアー情報

エコツーリズムの現場から

「エコツーリズム推進法」見直しへの期待

～全体構想策定のスピードアップと予算増を～

地域情報

13

日本エコツーリズム協会（JES）活動報告

14

クリッピング

18

事務局通信

季刊 ECO ツーリズム Vol.15 No.4 通巻58号 Spring 2013

発行 NPO 法人 日本エコツーリズム協会 Japan Ecotourism Society (JES)

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-24-9 アイケイビル 4F

TEL 03-5437-3080 FAX 03-5437-3081 E-mail ecojapan@alles.or.jp Web http://www.ecotourism.gr.jp

発行日 2013年2月25日

発行人 愛知和男（会長）

編集長 海津ゆりえ（理事）

企画・編集 高梨洋一郎（理事）／大久保史恵（事務局）／高野千鶴（事務局）

デザイン 自然堂（じねんどう）株式会社

印刷 株式会社 谷印刷所

本誌掲載記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

表紙写真

フランス・イエールのボルクロール島市街地。南仏カラーの素朴な街並がつづく。

写真提供：イエール観光局

平井伸治

鳥取県知事

住まうように旅する時代へ 新しい生き方を提案する地域づくり

地方の時代と言われ、行政が中央から地域に軸足をおかないと日本が元気にならない時代。その若きリーダーのひとりが鳥取県の平井伸治知事だ。

いま鳥取県はどういう位置にあり、どのような課題を抱えているのか。

今年、10月19日（土）から21日（月）にかけて鳥取県で開催される

「エコツーリズム国際大会2013 in鳥取」を前に、平井知事にお話をうかがった。

収録日／2012年10月9日

於／都道府県会館（東京）

インタビュー／高梨洋一郎（日本エコツーリズム協会（JES）理事）



エコツーリズムに 取り組みむきつけ 「住まうように旅する」時代へ

高梨 エコツーリズムに取り組みきつかけと、その背景にある観光の視点からの産業も含めた課題についてお考えをお聞かせください。

平井 本来の旅とは、時間に追われた日常の生活や現実の喧騒から逃れ、自然界の時間の流れを取り戻すことにあるのだと思います。これからは、あわてて色々なところを駆け足で見てまわるのではなく「住まうように旅する」時代に入っていると感じています。自然のリズムの中に溶け込み、生き物として体の中心からエンジョイできるような旅、人間の本性に近いものへと誘う旅、それは正にエコツーリズムの思想と合致していると思います。

鳥取県には、大山という神々しく人々に親しまれている山があり、美保湾、中海などの美しい水辺空間、広大なブナの原生林、砂丘、美味しい食べ物、里の営みなど、日本人にとって大切なけれども、忘れかけて

いるものが、そのまま息づいています。産業革命以降、人間が自然を征服するという開発及び近代製造業の流れから鳥取県は取り残されてきたように思われました。しかし、だからこそ逆に、いま私たちのところにこそ本当の生きる価値があることを私たち自身が気づき、発想を転換していく必要があるのです。そのための具体的な取り組みとしてエコツーリズムの思想に共鳴したいと思いました。

取り組みのきつかけは2005年に皆生温泉で、今までの旅のスタイルでいいのか、観光が団体から個人旅行へと移行する中で選ばれるためにはどうすべきかについて話し合った研究会で、山田桂一郎JES理事にアドバイスをいただいたことです。恐らくこの課題はエコツーリズムに取り組んでいる多くの地域で言われていることだと思います。

かつては旅行会社に団体を送客してもらい、黙っていても商売が成り立っていました。しかし、個人型の旅行では地域の魅力を自ら発信し、受け地観光の商品を作っていかなければお客様に訪れていただけないのです。

鳥取県では昨年「国際まんが博」を開催し、新しい魅力を付け加える取り組みも行っていますが、我々の本質からいけばエコツーリズムが切り札になります。

兼高かおる前JES会長をはじめ高梨洋一郎JES理事に旅行作家協会として鳥取県で特別例会を実施していただき、様々な作家と出会い、私たちはこういう旅のスタイルを目指したいのかなというのが段々



日本海から望む初冬の大山

と見えてきました。今、全県的に商品造成に取り組んでいます。

鳥取の魅力 神々が遊ぶ場所

平井 鳥取県の森林面積は74%を占めます。更に大山の山麓にはブナの原生林が広がり、森の豊かさや恵みに出会う機会は必ずば抜けていると言えます。それ故に今年の初夏に鳥取県で行われる「全国植樹祭」の開催地として白羽の矢が立ったのだと思います。

大山は、出雲王朝の時代から神々の住む山「神在山」と表現されてきました。その後、時代が変遷しても信仰の対象であり続け、西日本随一とも言われるほどの広大なブナの原生林が残されてきたのです。このような豊かな森、山を背景に鳥取県内には様々な種類の野鳥や、希少種のシジミチョウが生息するなど、生き物



大山ブナの巨木。パワースポットとして親しまれているブナ

達のサンクチュアリーになっています。鳥取県のユニークなところは、生き物達のサンクチュアリーであるブナの原生林まで海から車で30分もかからずに行けることです。美しい美保湾の砂浜や海岸植生、皆生の温泉街、大山のブナの原生林などが、わずか30分の移動範囲の中に揃っている、そんな地域は他にあまりないでしょう。

エコツーリズムの広がり 周回遅れのトップランナー

高梨 海、森、そして人々の暮らしがある里山里山。旅の仕方が変わり、じっくり腰をすえて暮らすように旅する時代が来た時に、鳥取の持つている資源がとて豊かであることに気づかせるのはエコツーリズム型の観光ですね。

平井 そうですね。しかし、気づいてもらうためには地元も努力しなければ

ばいけません。私たちは周回遅れのトップランナーだと思っています。だいたい置いていかれたと思いますが、時代が変わり、いつのまにかトップを走っている。前はどんけつじゃないかと言われたかもしれないが、今は「よう走つとるわ」と見えてきたと思います。

ただ、そのためにはお客様に楽しんでいただけるプログラムがもつと必要です。私たちはまず、皆生温泉と大山にそれぞれツアーデスクを設置

し、造成したツアー商品を販売、運営を始めました。商品造成は実験的なツアーもたくさんある中で、サイクリングやシーカヤックなど、定番になり始めている商品や、トレッキングや座禅体験、街中の文化歴史探訪など、オプショナルツアー的な旅行商品が出来つつあります。

中でもサイクリングには力を入れており、「ツール・ド・大山」や「ヒルクライムin大山」などのイベントを開催すると共にサイクリングロードを整備し、路面に地名などのサインを表示しました。

また、関西からの玄関口になる智頭町は、山深いところで慶長杉と言われる江戸時代に植林された杉林が残っており、一昨年から森林セラピーの取り組みを始めました。森林セラピストを養成し、森の中を歩くプログラムや、箸づくりの講座を設け、様々なメニューを用意し、森林セラピーの里づくりを行っています。昨年度は960人の参加があり、



大都市からお客様が来るようになり、3分の1くらいの方が宿泊をされ、ホテルは無いので民泊で受け入れました。夏場には森林セラピーの会合が開かれ、廃校を利用した宿泊施設を設け、そこで寝泊まりをしました。簡素なものです。参加された方々には大変喜ばれ、リピーターになっていただいています。私たちも取り組みを通して、こういう旅のスタイル、暮らすように旅するスタイルがとて潜在需要があることに気づかされました。

智頭町は「森のようちえん」でも有名で、森の中で遊んで月曜から金曜まで保育しています。県でも応援しており、大山町にも新たにできました。県内では森と親しみながら思いっきり体を動かして子育てをしようというグループも生まれています。

鳥取県は、人口規模は小さいですが、逆に小回りを活かして、周回遅れですけどトップランナーとしてがんばりたいと思っています。

エコツーリズム 国際大会に向けて 新しい生き方を発信

高梨 コンダクターである知事が旗を振ることで、取り組みやすさがあるのです。全国からみた時に、新しい生き方を発信しようとしているように見えます。

平井 小回りがきく理由はコミュニティが生きているからであり、顔が見えるネットワークと私は呼んでいます。大学の先生、資産家の方、旅館の主人、トレッキングのガイド、写真を撮っている方、大都市ではバラバラな存在ですが、うちがそれが一つのお皿の上ののっています。皆で「やらいや(やろうや)」と言うと、「じゃあやろう」となれるのは大きな力です。





この度、大山を中心として皆生温泉など県西部がかなり集まり、そこに「山陰海岸ジオパーク」や「梨の花温泉郷」など東部も中部も協力をしながらエコツーリズムの国際大会をやるうという組織ができあがりまして。これも鳥取県ならではの組織だと思っています。

今年の10月19日からの会期に間に合うように米子市の中海のほとりに約43メガワットのメガソーラー（大規模太陽光発電所）ができます。これは日本最大級のソーラー発電所です。海岸線には風力発電が41基まわっています。鳥取は再生可能エネルギーのシンボルになり始めているのです。大きな工場では産業系廃棄物を原料とした固形燃料の使用や、バイオマス発電を始めています。今のエネルギーの転換期において鳥取らしく小回りを活かしてグリーンウェーブを起こそうとしています。

エコツーリズム国際大会を通じて、雄大な大山や美しい日本海と共に暮らしてきた日本人の営みだけでなく、再生可能エネルギーなど、新しい生き方を世界へ発信していきただけだと思っています。

松下幸之助「観光立国の弁」

高梨 松下幸之助氏は昭和28年の『文藝春秋』で「観光立国の弁」を書き、その中で日本人は素晴らしい自然や文化などの資源があるにもかかわらず、売り惜しみをしていると言っていました。ものづくりの神様がその時代に観光産業を重要な輸出産業と位置づけ、観光立国を提唱していたのです。

日本は一つ山を越えると違った文化（宝）があります。その象徴的なのが鳥取であり、海、山、多様な文化など、一つ一つをつまむものすごい資源がある。しかし、それらの宝はそのままでは外の人にはよく見えないのです。外の人に見て知って体験していただくためには、宝に少し手を加え、参加しやすい形にして演出し、発信することが必要です。

平井 松下先生のお話は、慧眼ですね。外国の方と接して観光地について意見交換をすると日本の魅力として挙げられるのはデイズニー

ランドや東京などのテーマパーク、メトロポリタン以外に、もう一つは自然の美しさ。日本人はきれいに自然を守っており、素晴らしいと思われているのです。

日本は自然と対決する西洋とは別の道を歩き、自然の一部として生きること、歴史的に選択してきました。近年になって公害問題が現れ、公害をなくす技術を磨き、世界的なレベルでの技術立国になりました。先人たちの努力により守られてきた美しい日本をもう一度見つめなおし、「ビジット・ジャパン」の運動の中に従来のイメージとは違うものを

打ち出していかなければ日本は選ばれていけないと思います。

東京が上海、ニューヨークと比べ魅力があせていかなければ限りません。しかし、スイスのマッターホルンなど、変わらぬ自然は普遍的な価値があり、いつでもお客様を呼べます。自然の中で暮らすように旅する滞在型のエコツーリズムが本場に確立できれば、日本は観光立国として豊かな国になると思います。

しかし、残念ながら、まだまだマーケットの中で評価が固まっていなため、爆発的に人が来るということにはなっていない。私たちはこれ

エコツーリズム国際大会 2013 in 鳥取 開催

住まうように旅する。

森・里・海、水の連環と人々の営み

日時 2013年10月19日(土)、20日(日)、21日(月)

主会場 鳥取県米子市 BiG SHiP
(米子コンベンションセンター)

内容案 19日(土): 開会式、基調講演、
トークセッション、交流会
20日(日): エクスカーション、大山交流会、
ナイトツアー
21日(月): エクスカーション報告会、
大会総括、閉会式

主催 「エコツーリズム国際大会 2013 in 鳥取」実行委員会

共催 NPO 法人日本エコツーリズム協会

お問合せ 実行委員会事務局 TEL: 0859-31-9373

平井伸治 (ひらい しんじ)

昭和59年、東京大学法学部卒業後、旧自治省に入省。在職中に兵庫県、福井県、鳥取県に転出。平成18年、自治体国際化協会ニューヨーク事務所長就任。平成19年2月に総務省を退職。同年4月に鳥取県知事選挙に初当選し、知事に就任。平成23年に鳥取県知事選挙に再選、現在に至る。



までの取り組みで自信を持ち始めたところで、今はターニングポイントだと思っています。エコツーリズムは、これまでの観光の流れを変える大きな実験であり、私たちは先端的にメニユーを開発していかなければいけないと思っています。

高梨 まさに観光の新たな形を築くための実験ですね。象徴的に発信するのが日本におけるエコツーリズム国際大会の意義です。新しいエネルギーも含めて、古いものがあつて新しいものがある鳥取から世界に向かって発信する機会にしたいと思っています。本日はありがとうございました。